

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 名古屋東急ホテル
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 三好 親
 幹事 伊藤 健文
 広報・会報委員長 吉田 玄

No. 39

地域を育み、大陸をつなぐ

BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS

2010~2011年度 RI会長 レイ・クリンギンスミス

今日の例会

第1365回 平成23年6月7日(火)
 講演
 “人造石で名古屋港を築いた土木の神様 服部長七”
 碧南市史資料調査室 浅井 久夫 様

先週の例会

第1364回 平成23年5月31日(火) 晴
 友愛の日

◆それでこそロータリー

◆ビジター紹介 1名

◆ゲスト紹介

キャンヘルプタイランド 大矢 治夫様
 藤田千津子様

◆出席報告

会員 42 (38) 名 出席 34 名
 出席率 89.47 %
 前々回 5/17 (修正出席率) 94.59 %

◆6月会員誕生日

小杉啓彰君 (6/11)

伊藤幹事報告

- 1) 次回例会終了後、IM打ち合わせ会を開催致しますので、担当の方はお残り下さい。
- 2) ロータリーの友6月号が来ておりますのでお帰りにお持ち下さい。

三好会長挨拶

皆さんこんにちは！
 今日は5月31日です。旧暦でいいますと4月29日概ね1ヶ月程差があります。

さて会長を拝命してから早一年本当に早いものです。思えば昨今の今頃会長への心構えも全く無く、成り行きで第1回例会を迎えたことを思い出します。

そんな会長職の終わり際、本日は良いお話が2つ。1つは佐野寛さんが永らくのお休みを経て、元気に復活されました。これからは健康に留意され元気でいて下さい。それから元会員の藤田さんがゲストとして来られました。心身ともに余裕が出来たということなので、是非

会に戻ってもらう事を願います。皆さんもまた仲良くお願いします。

今頃は枇杷の季節です。まだ少し青いようですが、山の谷谷斜面でひっそりと実が熟すのを待っているようです。

桃栗3年、柿8年、早くも枇杷は13年!!
皆さんどうぞ味わってみてください。

キャンヘルプタイランド活動報告

運営委員 大矢 治夫 様

キャンヘルプタイランドはタイの子供達の教育支援しているNGOです。今年度で21年目を迎えました。



2010年度の奨学金授与式は2010年6月30日~7月7日において行いました。

タイ東北地方10県において、197人の奨学生に日本のドナーの皆様の尊い支援金を奨学生に直接届けました。



2011年度の奨学金授与式は7月1日~7月10日の実施で準備しています。

今年度の支援は200人を予定します。7月下旬発行のNT通信54号に詳細報告いたしますが、このような活動が出来ますのも、皆様の善意によって支えられているのであり、今後とも変わらぬご支援を賜ります様お願い申し上げます。ありがとうございました。

ロータリーの友 6月号より

ロータリー財団のはじまり

1917年6月17～21日、アメリカ・ジョージア州アトランタで開催された国際ロータリークラブ連合会の年次大会は、その後のロータリーの行方を変える大きな一歩となりました。

この大会で、前年の7月に会長に就任したアーチ・クランプは、「さまざまな社会奉仕を今まで通り続けていこうと思うなら、世界で善をなすための寄付金を受け取ることは極めて適切なことだと思われる」と述べ、新しい基金の創設を提案しました。

彼の提案は、同大会で採択されました。ロータリー基金（ロータリー財団の前進）への最初の寄付は、ミズーリ州カンザスシティーロータリークラブからの、26ドル50セントでした。

しかし、今日多くの成果を挙げているロータリー財団が、最初から順風満帆だったわけではありません。6年たっても基金の残高は700ドルにすぎませんでした。その後1929年に始まった世界大恐慌、1939年からの第2次世界大戦と、ロータリー財団には試練の日々が続きました。

1947年1月27日、ロータリーの創始者ポール・ハリスが亡くなりましたが、このことがロータリー財団の転機になりました。『ロータリアン必携』（1995年）には、

ポールの逝去で、寄付が国際ロータリーに相次いで寄せられるようになりました。財団はポール・ハリス記念基金を設け、ポールに敬意を表したいロータリアンに対して、財団強化のために寄付するよう要請しました。その反響は素晴らしいものでした。翌年の7月までに、米貨130万ドル以上が寄付され、永年の目標である200万ドルの寄付が射程距離に入ってきました。

1947年には最初の財団プログラムが実現されました。それは、高等研究奨学金と呼ばれるもので、1年目は、米国、ベルギー、英国、フランス、メキシコ、中国の18人の若い人たちが選ばれ他国でそれぞれの専門分野を勉強しました。当時は、この人たちはポール・ハリス・フェローと呼ばれていましたが、最初の国際親善奨学生でした。とあります。その後、教育プログラムに、人道的プログラムに、このロータリー財団は貢献しています。また『奉仕の一世紀』は「希望の財団」の項を

ロータリー財団が、これほど効果的なのは、資金と人を組み合わせるからである。アーチ・クランプはこのように述べている。

「金だけでは、大したことはできない。

個人の奉仕は、金がなければ無力である。

この2つが組み合わせれば、文明への天の恵みとなることができる。」

ポール・ハリスは1934年にクランプに出した手紙にこう書いている。「私たちは、あなたがこの運動に何年も注いできた努力以外に、おそらくこれといった努力をすることなく、いつか、突然、自分たちが何か非常に重要なものになっているのに気づくような気がする。」

ロータリー財団への支援が世界的ではなかったときに書かれたこの言葉は、先見的であった。クランプは1951年に亡くなったが、彼が大事にしたロータリー財団はすでに確かな現実になり始めていた。しかし、自分のビジョンについて最も楽観的だった日のアーチ・クランプ自身でさえ、「小さなひらめき」と彼が呼んだアイデアがこれほどの力を持つと想像したであろうか？という言乗で締めくくっています。

『友』編集長 二神 典子

ニコボックス

藤田千津子さん

お久しぶりです 本日よりしくお願いします

小林 英毅

本日は4F桂の間で囲碁会があります 皆様の参加お待ちしております

鈴木 聖三

元千種ロータリー名古屋三越百貨店 佐々木社長より"山本容子の劇場"のチケット頂きました お持ち帰り下さい

油田 弘佑

足立 一郎

萩原喜代子

林 正路

池森 由幸

伊藤 健文

樫尾 富二

加藤 重雄

川端 圭

喜多 康夫

小山 雅弘

松居 敬二

宮尾 紘司

三好 親

西川 豊長

大口 弘和

大谷 恩

佐久間良治

佐野 寛

笹野 義春

鈴木 理之

竹内 克豊

竹内 眞三

谷口 優

舎人 経昭

和田 正敏

吉田 節美

吉田 玄

ボランティア活動ご苦労様です

小杉 啓彰

会員誕生日祝い



合計 72,000円

次回例会 平成23年6月14日(火)
友愛の日

3階 錦の間